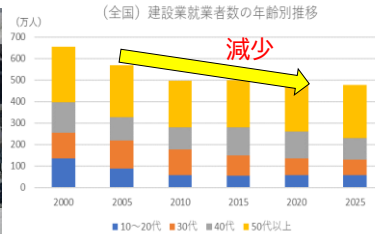


1. 滋賀県のインフラ整備等に関する現状と課題

激甚化・頻発化する巨大災害への備え、整備途上のインフラと老朽化への対応、人口減少に伴う担い手不足や技術継承、さらには急速に進むデジタル化への対応など、本県のインフラはこれまで経験したことのない様々な問題を抱えている。



2. ビジョンの必要性・位置づけ

本県のインフラは、道路や河川等の個別分野の計画に基づき整備や維持管理を進めてきたが、本県のインフラが抱える様々な問題に、市町や建設業界等と一丸となって対処するためには、分野や組織を越えた統一したビジョンが必要である。

このため、**2050年を見据えた本県のインフラ整備・維持管理の基本的な理念や方向性を示す「(仮称) 滋賀インフラビジョン」**を策定する。

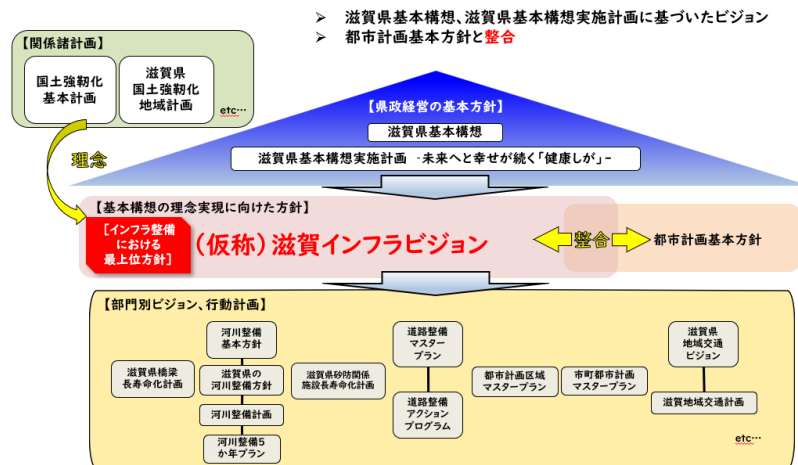


図1 ビジョンの位置づけ

3. インフラ整備・維持管理のあり方(案)

これからもインフラの整備・維持管理によって、『県民の安全・安心な生活』、『経済・産業の発展を支える強靱な社会基盤』、『ヒトやモノの新たな交流や地域のなりわい、生活の営みといった人の暮らしや文化』を創出していく。

ビジョンでは滋賀県基本構想で示した「人」、「経済」、「社会」、「環境」の4つの視点を念頭に、基本構想で描いた2030年の先も見据え、持続可能な地域社会を実現するためのインフラの整備・維持管理のあり方を示す。

滋賀県基本構想【計画期間：2030年】

人 自分らしい未来を描ける生き方

経済 未来を拓く新たな価値を生み出す産業

社会 未来を支える多様な社会基盤

環境 未来につなげる豊かな自然の恵み

滋賀県基本構想実施計画(第3期)策定に向けて

いまの基本構想の先を見据えて...

実施計画(第3期)は、現基本構想の最終期であると同時に、さらにその先を見据えた新たな出発点である。

2050年を見据えて、インフラ整備・維持管理のあり方を検討

実現したいインフラ整備・維持管理のあり方(案)

- これまで先人たちが築いてきた滋賀の風土を守るとともに、官民が強力に連携し、県民の安全・安心な地域社会を築く
- 「成長投資」、「危機管理投資」としてのインフラ整備等により地域社会の活性化や新たな価値(雇用)を創出する
- 新たな時代の暮らしに適したインフラを地域の将来像に合った規模で最適化を図り、持続可能な地域社会を実現する 等

4. 今後の予定

令和8年度：骨子作成

- 市町、建設業界、有識者等に意見聴取
- 意見を踏まえた内容検討

令和9年度：ビジョン策定

※検討状況について、常任委員会に適宜報告